



# 教員が研究の楽しさを語る

第211回(12/18)高橋絵里香先生推薦

## ブックガイド



※掲載されている本はL棟2階 あかりんアワーのコーナーに配架されます。

### Book1

#### 女も男もフィールドへ(100万人のフィールド ワーカーシリーズ12)

著者：椎野若菜, 的場澄人編

出版：古今書院, 2016.6

コメント：フィールドワークを行う研究者にとって、自身のジェンダーや子育てをはじめとするライフイベントは、研究にどのような影響を与えるのでしょうか。様々な領域の研究者が、結婚・妊娠・育児といった自身の人生とフィールドワークの絡み合いについて、ライフヒストリーを語っています。



### Book2

#### 老いを歩む人びと：高齢者の日常からみた福祉 国家フィンランドの民族誌

著者：高橋絵里香著

出版：勁草書房, 2013.3

コメント：北欧型福祉国家というと、「福祉が進んでいるのではよね」とコメントされることが多くあります。この本は、進んでいる／遅れているという尺度で社会福祉制度を測るのではなく、その土地における老いのかたちや個人のあり方、地域社会の成り立ちといった「文化的なもの」の視点から、フィンランドの高齢者ケア制度について解き明かしています。





※掲載されている本はL棟2階 あかりんアワーのコーナーに配架されます。

### Book3

## うしろめたさの人類学

著者：松村圭一郎著

出版：ミシマ社, 2017.10

コメント：エチオピアでのフィールドワークの経験を通して日本の社会を見直す本。経済、国家、市場といった巨大なシステムのなかでバラバラに生きている私たちがどうやってふたたび社会関係を構築することができるのかという問いに真摯に向き合っている本です。

